

さまざまな表記

今回の学習のポイント

- ① 日本語の表記の特徴を理解する
- ② 「カタカナ」表記が生み出す印象とは？

日本語の表記の特徴を理解する

日本語は原則として、「漢字」「ひらがな」「カタカナ」の「漢字かな交じり文」で構成され、表記します。このほかにも実際には、ローマ字や数字、符号なども使われており、世界の言語と比べ、日本語はとても複雑な表記の体系を持っています。番組では「カタカナ」表記を中心に取り上げていますが、ここでは日本語に用いる文字、符号の種類と用例の基本について確認しておきましょう。

① 漢字

- 形容詞・形容動詞や動詞（用言）の語幹

〈例〉美しい 静かだ 走る など ※語幹⇨その言葉の活用（変化）しない部分
（⇩その言葉の意味にかかわる部分）

- 名詞

〈例〉国語 教室 富士山 など

- 日本人の名前

〈例〉山田太郎 渋谷花子 など

② ひらがな

- 用言の活用語尾（送り仮名の部分）

〈例〉楽しい 食べる など

- 助詞・助動詞

〈例〉本を読もう 明日は晴れるだろう など

③ カタカナ

- 外来語（外国の地名や人名も含む）

〈例〉アイロン ワイシャツ アメリカ など

- 擬音語（擬態語）

〈例〉ワンワン キャンキャン ドスン ゴロゴロ など

- 生物（動植物）の名前

〈例〉サル ヒツジ アジサイ リンゴ など

国語監修・執筆

中澤匠吾

④ ローマ字

- 略語、略称、イニシャルなど

〈例〉SE (システムエンジニア) NHK (日本放送協会)
kg (キログラム) など

- 外国語 (日本語の中で、あえてその言葉を強調する場合)

〈例〉Open Photo など

⑤ 数字

- 数量の表示

〈例〉3年間 500円 など

⑥ 符号

- 感嘆符 (！) 疑問符 (?) かぎかっこ (「」) など

【発展】

「オウムさん」「おうむさん」「鸚鵡さん」

この表記の中で、一番わかりやすいと思われるものはどれでしょうか。

↓ いずれも表記の間違ひはありません。

しかし、鳥の「おうむ」+敬称の「さん」ですから、ここでは「オウム」をカタカナとし、「さん」と区別できるようにすると読みやすいです。

ひらがなだけが並ぶと一瞬区切りに戸惑いますし、「鸚鵡」と漢字で書くのはかなり難解で、読み手にもあまり親切とは言えません。漢字、ひらがな、カタカナをどのように組み合わせるべきか、読み手側を意識して書くことも必要です。

「カタカナ」表記が生み出す印象とは？

前に示したカタカナ表記する言葉のうち、たとえば擬音語にはひらがなを、動植物名にはひらがな、あるいは漢字を使っても誤りではありません。しかし、ひらがなを使うのとカタカナを使うのでは、与える印象に違いが生まれます。一般的に、ひらがなは柔らかく親しみのある印象を、カタカナは硬く冷たい、あるいは無機的な印象を与える場合があります。

例えば、冷たさを感じるさまを表す「ひやり」という言葉も、「ヒヤリ」と表したほうがより冷たい感じが伝わるのではないのでしょうか？



【発展】

通常ひらがなで表すものを、あえて「カタカナ表記」とする効果は他にもあります。

- 文の中でその言葉を浮き上がらせる（強調する）

↓ 「彼女は私にとってタイヨウのような存在だ。」

- キャッチフレーズ的な働きを持ち、インパクトを与える

↓ 「ガンバレ、ニッポン。」

- ある特定の状況、状態の印象を強める

↓ 「コンニチハ」など。

まとめ

かな文字ばかりの文は、意味がとらえにくく、また、若い印象を持たれてしまいます。一方で漢字が多過ぎると、これもまた硬い印象を与え読みにくくなってしまいます。それぞれの働きを理解して、適切に文字を使い分けることが大切です。また、カタカナには原則の表記のほかに、ひとつの工夫としてあえて用いることで、細かなニュアンスや意図を表現できるというメリットがあります。

冒頭に述べた通り、日本語は他の言語と比較して大変複雑で難しいと言えるのですが、誰に対して何を伝えたいのかを考え、文字を使い分けることにより、表現の幅を広げていくことができます。